



大学院看護学研究科長に就任して

大学院看護学研究科長 丸岡直子



本年4月より研究科長の重責を担うことになりました。本学の看護学研究科は、博士前期課程（修業年限2年）と博士後期課程（修業年限3年）からなります。前期課程では専門看護師（CNS：Certified Nurse Specialist）をめざす人に対して、地域看護、小児看護、がん看護、老人看護の分野で専門看護師教育プログラムを開設しています。これまでに、大学院博士前期課程では5期37名の修士号取得者が、博士後期課程では2期6名の博士号取得者を送り出し、教育・研究ならびに臨床現場で活躍しています。本年4月、大学院には11名（前期課程9名、後期課程2名）

が入学し、現在、前期課程18名、後期課程5名の計23名の大学院生が学んでいます。

看護学は、さまざまな健康レベルの人々がその人らしい生活を送ることができるように、自立と自己実現を支援する実践の科学です。本学の教育理念は、豊かな人間性と高い判断力をもった専門職業人として、幅広い領域で活躍できる看護職を育成することにあります。

本学の教育理念をさらに進化・発展させ創造的な看護の学術研究を推進し、看護学教育・研究者の育成とともに、専門的知識・技術・実践能力を備えた看護職の育成に努力したいと考えております。

看護学の専門性を探究し、質の高い看護の提供と開発に意欲的な大学院生とともに、共に学び合い、新しい研究の発展と社会への還元をめざしたいと思います。

目次

大学院看護学研究科長に就任して	1	キャンパスライフ	
大学の主な動き		フィールド実習	6
第11回入学式	2	小児看護学実習Ⅰ	6
「社会人基礎力育成グランプリ2010」	2	地域看護学実習	6
決勝大会出場		サークル活動紹介	6
10周年記念事業を終えて	3	大学祭のお知らせ	7
オープンキャンパス	4	図書館から	8
新任教員紹介	4	地域ケア総合センターから	8
卒業生に聞く	5	キャンパススケジュール 2010年度後期	8
日系研修事業	5		



石川県立看護大学

ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

大学 看護学部看護学科
大学院 看護学研究科

〒929-1212 石川県かほく市中沼ツ7番1
TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319
URL <http://www.ishikawa-nu.ac.jp/>
E-mail office@ishikawa-nu.ac.jp

大学の主な動き

第11回入学式

桜花爛漫な春の佳き日となった4月5日、第11回入学式が挙行されました。谷本正憲石川県知事はじめ来賓の方々、ご家族の見守り中、看護学部看護学科に（3年次編入学生も含め）89名が、また大学院看護学研究科博士前期課程9名、博士後期課程2名が入学いたしました。木村賛学長からは、今年度は開学十周年の節目であり、また平成23年4月からの公立大学法人化に向けて、発展的な組織化を旨として教職員が取り組んでいること等のお話がありました。入学生代表の宣誓の言葉には、大学および大学院での学びに対する意欲や、これからの学生生活への希望が感じられました。学生の皆様には、入学時の気持ちを忘れずに持ち続けていただきたいと思えます。

看護教育は、高度な看護実践能力や総合的な調整能力が求められています。それに応えるために、本学は充実した学習環境や学生の皆様への支援体制を整えています。これらを大いに活用し、自ら学習し、よい体験を多く積み重ねるようにしてください。充実した学生生活がおくれることを祈念しています。

教務委員長 林 一美



大学院 入学式



大 学 入学式

「社会人基礎力育成グランプリ決勝大会2010」について



私たちは垣花ゼミの皆さんと有志が集まって、地域に密着した様々な活動をしてきました。その活動から、社会人としての基礎力がどれだけ上がったのかを昨年12月23日に「社会人基礎力育成グランプリ」という場で発表しました。ここで言う「社会人基礎力」とは経済産業省が提言する定義で、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」といった、職場や地域社会で働く上で必要な力のことをいいます。そして西日本大会を勝ち抜き、3月5日に決勝大会に参戦し、私たちは「特別奨励賞アカデミック賞」を受賞することができました。

その背景には「いきいき美人大学校」「食育フェスタ」「食事会兼健康についての勉強会」等の活動があり、これを通して社会人基礎力を高めてきました。地域の方との会話や、様々な人々と連携を取る中で、社会の常識等を学んだり、コミュニケーション能力が向上したりしました。また、先輩と後輩が協力することにより、お互いに刺激し合い高め合ってきました。

このように私たちは病院実習や授業では経験できない多くの良い経験をすることができ、自分を見つめ直すきっかけにもなりました。今年度から、「いきいき交流サークル」という名称でこれからも垣花ゼミの皆さんのもと、頑張っていきたいと思えます。

2年 小椋 美穂

10周年記念事業について



石川県立看護大学は2000年に開学し、本年創立十周年を迎えました。それに併せて10周年記念事業として5月30日(日)には、ホテル金沢において360名を越える参加者を得て記念式典、記念講演、記念シンポジウムを開催しました。

記念式典では「10周年のあゆみ」DVDの上映と音楽サークルによる合唱のオープニングセレモニーに引き続き、木村学長と谷本知事の挨拶と来賓祝辞、ワシントン大学からのお祝いメッセージの披露そして金川克子初代学長と天津栄子初代学生部長への感謝状贈呈を行いました。

ついで南裕子近大姫路大学学長による「これからの看護の課題と役割」と題した記念講演に、グローバルな視点とともに看護の原点に立ち戻ることの大切さと、今日的な話題としての特定専門看護師に大いに刺激を受けました。

「石川県立看護大学の未来像 ～私たちがめざすもの～」というテーマのシンポジウムでは、本学参与であり現在、神戸市看護大学学長でもある金川克子先生、本学研究科長の丸岡直子、本学修了生の寺井孝弘氏、本学大学院生の小坂真弓氏から、国際交流の充実や臨床との結びつき、卒業生の支えの必要性など幅広い話題が出されました。

併せて「石川県立看護大学のあゆみ」年譜プレートを作成し、本学センターホールに設置しました。また記念誌とDVD「10周年のあゆみ」を作成しました。

参加者それぞれが本学の10年間の歴史とこれから歩むべき道筋を噛みしめることのできた貴重な機会でした。

10周年記念事業実行委員 武山 雅志



オープンキャンパス

オープンキャンパス2010が7月17日(土)に開催されました。250名近い高校生やその保護者ら、また大学院受験希望者の参加がありました。大学内は多くの参加者で賑わい、在学生の頼もしい協力を得て、盛況のうちに終了しました。

当日は、講堂での大学概要・入試情報等の説明後、6つのテーマから参加者それぞれが選択した公開授業を講義室や看護学実習室で受講していただきました。その後、看護学実習・フィールド実習・国際交流の紹介、施設見学、各看護学実習室での看護学体験

の企画に自由に参加していただきました。また、個別相談コーナーや学生交流コーナーでは、教職員や在学生に入試や受験勉強対策、大学生活について真剣に相談している姿がありました。学生交流コーナーだけでなく、施設見学や看護学体験等さまざまな場面で、在学生が参加者と積極的に交流している様子は和気あいあいとした雰囲気がありました。アンケートによる参加者からの声も概ね良好でした。このオープンキャンパスが参加者の皆さまにとって、本学への理解や関心を深める機会となり、一人でも多くの方に本学への進学を志していただけることを期待しています。

広報委員 木村 久恵



新任教員紹介

健康科学講座（保健・治療学） 長谷川 昇教授

平成22年4月1日より、健康科学講座に着任いたしました長谷川昇と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は、大学・大学院と薬学を専攻し、炎症の薬理学と平滑筋の薬理学を研究しました。大学院博士前期課程を修了後、医学部の生理学教室に助手として採用され、血液生理学を研究し学位を取得しました。その後、栄養士・管理栄養士の養成に携わり、薬理・生理学の知識を生かし、食品や食品成分の生理・薬理機能について研究してきました。

微力ではありますが、これまでの経験とチャレンジ精神を生かし、臨床現場で実践的に応用できる薬理と栄養の知識を備えた看護師の養成に寄与し、多くの有為な人材の輩出と情報発信を通して石川県の活性化にも貢献していきたいと考えます。

着任後これまでに、多くの先生方に親切にいただき、大変感謝しております。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



成人・老年看護学講座（老年看護学）高山 成子教授

4月に、神戸市看護大学より着任しました。と聞くと、いかにも洒落た神戸の女性ようですが、生まれも育ちも隣の福井県。と言うわけで、北陸特有の、「暗い空」「いつでも傘の用意」「雪が降る」などは嫌でないどころか、愛しくさえ思える現在です。ただし、冬にどんな気持ちになっているかは???

老年看護学教員として中国地方、近畿地方を歩いてきました。痛切に感じることは、高齢者問題はどこでも最重要問題で、特に認知症になられた高齢者の看護は喫緊の課題だと言うことです。広島でも、神戸でも、市民からの認知症の講義の要望は強く、近年は訪問看護、病院からの要望が切実でした。今回、数年ぶりに北陸地方に目を転じてみると、先の県より認知症看護の切迫感が少ないように感じ「はて？」と思いました。が、車で走れば、必ず高齢者が田やぶどう畑で精を出しておられるのを見て『地域力が高いせいではないか』と思ひ至っております。その意味で、地域力を生かした、認知症になられた高齢者の支援モデルが、この地方でこそできるのではないかと、はや1ヶ月目にして密かに夢を育くんでいるところです。「夢大きくして結果無し」にならぬよう、がんばります。

地域・在宅・精神看護学講座（地域看護学） 塚田久恵准教授

今年4月から地域看護学講座に石川県との人事交流で、赴任しました。県に勤務して以来20数年の月日が経ちましたが、この間、県の保健所、県庁を行き来し、微力ながらも市町の保健・医療・福祉従事者の方々とともに、地域に暮らす人々の健康を守る仕事に邁進してきました。

県庁では、各種検診や精度管理委員会、保健福祉計画、感染症対策を担当し、保健所では、長年、企画調整部門に携わってきたため、事業を通し、様々な職種の方々との接点も多く、生活習慣病対策等の地域の健康課題を解決していくためには、保健・医療・福祉機関の連携や協働してのシステムづくりの必要性をひしひしと感じております。

長年住み慣れた北陸の地で、今度は、大学という学舎で、新たな気持ちで、現場での経験を生かし、教育・研究に、そして現場との橋渡しに力を注いでいきたいと思ひます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



卒業生に聞く

●保健師に就職した先輩！

富山県砺波厚生センター小矢部支所（7期生） 大野 有加さん



私は、実習を通し、過去の生活習慣に後悔されている患者さんや、病気を抱えつつ地域で暮らしている患者さんの姿を見て、予防から退院後まで、幅広く人々の健康を守る仕事に魅力を感じ、保健師を目指しました。

試験は、公務員試験、専門試験、作文や面接など様々で、実習や卒業研究の間をぬっての勉強は大変でしたが、先生方や友人の支えにより乗り越えられたと思います。

就職当初は、県の文書への回答や申請の受け付け等、事務仕事も多く、仕事に慣れることで精一杯でした。また、私は、県外出身であり、地区を全く知りませんでした。そのため、地区を覗くという保健師本来の業務についての難しさを感じたこともありました。そのような折、先輩保健師さんから、1つの事例に丁寧に取り組む大切さを教えていただき、とても心に残っています。これからも、戸惑うことも多々あると思いますが、先輩保健師さんの言葉を大切に、住民一人ひとりと丁寧にかわり、地域の健康づくりに力を尽くしていきたいと思っています。

●県外に看護師として就職した先輩！

北海道大学病院（7期生） 堀 志珠香さん

私が北海道大学病院を目指した理由は2つあります。1つは県外で看護を学んでみたかったこと、もう一つはずっと憧れていたよさこいチームに入るためです。北海道に来た当初は知り合いもおらず、環境も全く違う中でホームシックになることもありましたが、友達や家族の支えがあり乗り越えることができました。県外を目指している人がいたらとにかく一歩踏み出してみてください！

仕事は思っていたよりもとても大変で、自分の無力さに悲しくなり、泣いたり悔しい思いをすることもたくさんあります。また、日々の仕事の中で看護の限界を感じることもあります。しかし、同時に看護師にしかできないことも多くあり、患者さんと関わる中でやりがいを見つけ、今は看護師になってよかったなと実感しています。学生時代はレポートや実習で大変だと思いますが、看護の道を選んだことは素晴らしいことだと思うので、負けずに頑張ってください。臨床で皆さんを待っています!!



●助産学専攻科に進学した先輩！

浜松医科大学助産学専攻科（7期生） 肥田あゆみさん



わたしが助産師を目指したきっかけは何よりも赤ちゃんが大好きなこと、大学の母性看護学実習を通して、専攻科に進学し専門性を磨き、お産をするお母さんご家族が安心して満足のいくお産ができるようお手伝いをしたいという思いが大きくなったからです。

受験勉強は、私の受験した大学の科目が母性・小児だったので、まず問題集のQuestion Bankの母性と小児について2回程やりました。その後、助産学校の受験問題集をやり、わからなかった箇所は教科書や「病気が見える」などの参考書を使って、徹底的に調べるようにしていました。

現在の助産専攻科では4、5月に講義を受け、お産や母子を取り巻く環境についてより詳しく学びます。6月には技術チェックもあり、自分の練習してきた分娩介助の技術について先生方からアドバイスをいただきます。7月からは実習に入り、お産を10例とる予定です。つらいこともありますが、助産師はより深くお母さんや赤ちゃんに関わることができる職業なので、嬉しさや楽しさもたくさんあります。頑張ってください。

●養護教諭に就職した先輩！

金沢市立高岡中学校養護教諭（4期生） 森下真紀子さん

石川県立看護大学を卒業後、金沢大学養護教諭特別別科を修了し、2年間の講師経験後、今年度から養護教諭として中学校に勤務しています。

複数配置なので、先輩養護教諭から御指導を頂きながら、日々奮闘する毎日です。

養護教諭とは、学校の保健室の教員であり、学校教育法では、「児童生徒の養護をつかさどる」とされています。主な仕事といえば、救急処置を行うというイメージかと思いますが、実際は、健康診断や健康相談、学校行事の引率や救護、保健指導など多岐にわたります。

現在は、まだ仕事を覚えることに精一杯であり、経験の浅い私にとって、養護教諭の職は難しいと感じることもあります。生徒と過ごす日々には大変やりがいを感じています。

今後の抱負としては、学ぶ姿勢を忘れず、自分なりに「養護教諭とは」と考えながら、仕事にあたっていきたいと思っています。



日系研修事業

ようこそ、石川県立看護大学へ

パラグアイ・ボリビア日系研修「高齢者福祉におけるデイケアサービス」

夏の到来とともに今年も南米パラグアイ・ボリビアから日系の方々4名をお迎えいたしました。本学が日系研修「高齢者福祉におけるデイケアサービス」を羽咋市社会福祉協議会とともに支援を開始して4年目になりました。今年は、昨年度のパラグアイへのフォローアップ調査に向いた内容も考慮して高齢者福祉サービスの体験だけではなく、体制づくりにも尽力できる人材育成を重視したプログラムにいたしました。歓迎会ではサッカーワールドカップで闘った直後だったため南米パラグアイ社会への関心も一段と広がったように思います。

パラグアイから参加された家久玲子さん、松橋南さん、吉田由美さんは、すでにデイサービスに取り組みながらも、さらにレクリエーション方法や介護技術を学び、閉じこもり予防、ヘルパーの育成や訪問活動にも力を入れたいと語ってくださいました。

また、ボリビアからはじめての研修生宮園英美さんをお迎えしました。現役の看護師として働きながら、ボランティアでデイサービスに取り組んでいるとのこと、日本の福祉システムを学び、自国の組織作りに生かしたいとの意欲をお持ちでした。

2ヶ月間の短い期間でしたが、高齢者福祉の研修とともに祖国日本の文化を満喫して下さったと思います。本学とパラグアイやボリビア社会との架け橋にもなってくださいることを期待しています。

附属地域ケア総合センター長 川島 和代



キャンパスライフ

フィールド実習

3年次編入生 上水 彩・中村 衣良・中山 晴恵
西田麻由加・宮田 佳織・渡辺 達也

私達は入学当初、生活に必要な場所を知らずに困り、来春の新入生も同じように感じると思い『新入生応援隊・かほく市活用術～生活編～』として生活情報の発信をしようと考えました。そこで、かほく市役所企画情報課情報推進室で地域に密着した情報の収集と発信の実際を学びました。



実習では特に、取材時のメモはキーワードとなるもののみを書き留めることで、コミュニケーションを図りながら話を聞き、相手が一番伝えたい重要な情報を収集することが大切だと学びました。また、対象者の年齢別に文字の大きさを変化させる事で相手の見易さに配慮していることを知り、読み手のことを考え配慮して作成している事を学びました。

今回の学びは、私たちが当初目標としていた新入生への情報発信のみでなく、看護職として患者や市民に情報収集や発信をする場でも共通する点が多いと思います。そのため、学びを学びに留めておかず、是非今後の活動に活かしていきたいです。

地域看護学実習

4年 山口 明彦

私は実習前まで、保健師の仕事について、関心や興味は全くありませんでした。「保健師なんて楽な仕事だ。」とさえ思っていました。

しかし、私のイメージや思い込みは実習先で一変することとなりました。実習先の保健師さんは、毎日の様に地域を走り回り、住民の方々との対話を大切にしながら日々活動していました。住民の方からの信頼も厚く、行く先々で声をかけられ頼りにされていました。また、保健師さんは、どんな時でも、誰に対しても、常に明るく満面の笑みで人と接しており、学生である私までもが暖かい気持ちになりました。そんな、保健師さんの姿を見ているうちに、「保健師ってすごい人なんだ！」と思うようになりました。

私は、看護師志望ですが、実習で出会った保健師さんの姿から、専門職業人としてのあり方や、人と接していく上で大切にしなければならないことを学んだように思います。この実習で学んだことを、看護師として働いていく中でも大切にしていきたいと思いました。



小児看護学実習 I

3年 福田ひろこ

私は、4日間の保育園実習のうち、1・2日目は5歳児を、3・4日目は2歳児を担当させていただきました。5歳児の保育ではルールを守ることをとても大切にしていました。このことから、子供たちが成長・発達の過程でルールを守らない大人を見ていると、物事をきちんと判断できなくなる事を学びました。大人は常に子どもの見本となっていることを自覚し、しっかりとした態度で接していかなければいけない責任があると思いました。2歳児では、日常生活行動を身につけ、自立していけるようにすることが大切です。子どもが自分を頼ってくると、可愛いという思いからすぐに手を貸したくなります。しかし、その成長・発達を支援していくには、その子どもがどこまで自分自身でできるかを判断し、できないところに少しだけ手を貸すということ、また、すぐに手を貸すのではなく見守ることもその子の為になり大切なことだと感じました。実習を通して、それぞれの年齢での成長・発達の様子や年齢に応じた関わり方を学ぶことができました。この学びを今後の実習に活かしていきたいです。



サークル紹介

いきいき交流サークル

2年 戸部 雅代



私たちは垣花ゼミの皆さんと共に、地域の方々を招いて様々なイベントの企画・運営をしています。元々はボランティアとして手伝いをしていたメンバーが集まって、今年度からサークルになりました。去年から「いきいき美人大学校」「食育フェスタ」「桜ウォーキング」「かほく自然塾」などの活動や、入学式・オープンキャンパスで地域の食材を使ったスープやデザートを振舞ったりしました。また、「社会人基礎力育成グランプリ2010」にも出場し、決勝大会で特別奨励賞アカデミック賞を受賞しました。

このサークルでは、病院実習や授業ではできないような多くの良い経験をすることができます。地域の方々との会話や外部の人と連携をとる中で社会の常識を学び、コミュニケーション能力の向上にもつながります。また、先輩と後輩がお互いに協力し、刺激しあひながら活動できることも魅力です。向上心のある個性豊かなメンバー達と共に、楽しみながら人として成長できる素晴らしいサークルです。

第11回看護大学祭

第11回石川県立看護大学大学祭を10月30日(土)、10月31日(日)に開催いたします。

今年のコンセプトは、「どんな世代の人が来ても楽しめる♡」と「看護大10周年を機に学祭に革命を起こそう!」の2つです。そして、これらをもとにテーマを「♡看大 Revolution♡ ~楽しくって帰れま10th~」としました。現在、いろいろな世代の方が大学祭を楽しむことができ、特に若い世代の方にもかほく市のことや看護の素晴らしさを知っていただけるような大学祭にするため、多くの企画の準備を進めています。

企画の内容としては、講演会、各種の模擬店の出店、献血、お化け屋敷、カラオケ大会、合唱、ハモネプ、バンド演奏、ミスコン、ちびっ子ダンス、子供の部屋、フリーマーケット、ブラスバンドによる演奏、看護体験などがあります。カラオケ大会は現在出演者募集中ですので参加されたい方はお気軽にお申し出ください。各種サークルの企画もありますので、是非足を運んでください。

講演会では、落語家の林家花丸さんをお招きして、「笑いは百薬の長～快適な生活は笑い与健康から～」をテーマに、腹の底から笑える落語で、中身の詰まった90分をお届けします。

小さなお子様からお年寄りの方まで多くの方に参加していただき、大学祭を盛り上げていきたいと思っておりますので、ご家族・お友達をお誘いあわせの上、是非ご参加ください。会場へのご案内は当日掲示いたしますのでご覧ください。

【日時】

平成22年

10月30日(土) 9:30~18:30

10月31日(日) 9:30~15:00

【場所】

石川県立看護大学



林家花丸氏 講演会

笑いは百薬の長

～快適な生活は笑い与健康から～

平成22年10月30日(土)

午後1時より 講堂にて

腹の底から笑える落語…
そして心が晴れ晴れとするような講演…
中身の詰まった90分!
たくさんの方々のご来場をお待ちしています。
お楽しみに!!!

図書館から

ご利用については、<http://www.ishikawa-nu.ac.jp/>をご覧ください。

今年度、学内で利用できるデータベース及び電子ジャーナルは下記のとおりです。



世界の医学関連領域の論文検索（英語 ※一部日本語検索も可）



日本語の医学関連領域を含む科学技術全分野の論文検索（日本語）



日本語の医学関連領域の論文検索（日本語）



国内大学及び試験研究機関全領域の論文検索（日本語）



世界の看護学関連領域の論文検索&電子ジャーナル（英語）



国内の臨床医学系雑誌580タイトル収録の電子ジャーナル

※この他にも文献検索ができるフリーアクセスジャーナルもありますので、図書館スタッフに気軽にお尋ねください。

地域ケア総合センターから

かほく市ケーブルテレビネットワークで
本学地域ケア総合センター事業のお知らせが始まりました！



附属地域ケア総合センター長 川島 和代

2010年度より地域ケア総合センター事業を地元のかほく市ケーブルテレビにおいてお知らせの時間をとっていただくことになりました。一日5回、数分ずつですがケーブルテレビで放映されています。一般県民向けの公開講座や看護・介護等専門職向けの指導助言事業、スキルアップ講座などです。地域の皆さまに開かれた大学をめざして開学時より設置されました地域ケア総合センターは、「人材育成」、「調査研究」、「指導助言」、「情報提供発信」、「国際化促進」等の5つの事業を柱とした大学教員の地域貢献の拠点でもあります。本学の取り組みが県民の皆さまに広くご理解いただき、一人でも多くの方々に看護大学の魅力を知っていただければと願っています。また、学生・院生にはこのような地域ケア総合センターのさまざまな事業に触れて、学生時代から地域社会における保健医療福祉の課題を考える機会とし、自分の視野を広げ将来への確かな学びの一助にして欲しいと考えています。多くの皆さまのご出席をお待ちしております。

キャンパススケジュール 2010年度後期

授業開始	10月1日(金)
履修登録受付	10月1日(金)～10月8日(金)
大学祭(看大祭)	10月30日(土)～10月31日(日)
冬季休業	12月25日(土)～1月7日(金)
大学入試センター試験準備日	1月14日(金)
補講・試験	2月15日(火)～3月1日(火)
春季休業	3月10日(木)～3月31日(木)
卒業式・学位授与式	3月19日(土)

「石川県立看護大学」の設置者は、平成23年4月に石川県から石川県公立大学法人へ移行する予定をしています。

発行 ●石川県立看護大学

〒929-1212 石川県かほく市中沼ツ7番1 TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319
URL <http://www.ishikawa-nu.ac.jp/> E-mail office@ishikawa-nu.ac.jp